

シーズパック 株式会社

オリジナルパッケージで
地球環境の保全に貢献

納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンリーワン技術
メイドインジャパン
試作可小ロット
量産対応



独自の加工技術が詰まった製袋（せいいたい）工程

業務内容
食品分野を中心に
さまざまなパッケージを展開

「シーズパック」は、青果物など生鮮食品や惣菜用の防曇袋を中心に文具・雑貨用途のヘッダー袋、テープ付袋などの加工を得意とする製袋メーカー。大手文具メーカーのクリアファイルの中袋の製造会社として創業したが、その後、大手文具メーカーの生産内製化や海外シフトに伴う受注の減少で方針を転換。製品の中身の製造から食品の包装用袋などのパッケージを中心に事業展開を進めてきた。

現在では、全国のJA（農業協同組合）をはじめ、青果物生産者、コンビニ、スーパーマーケット、包装資材卸売業者などに幅広く納入している。

強み
独自の加工技術と
提案力でオリジナルの袋を

文具メーカーが求める厳しい製品品質に対応した製造経験を通じて、品質管理や溶着裁断などの加工技術のノウハウを培ってきた。技術力に加え、同社が取得した特許や意匠を活用したオリジナルの包装袋を開発し、量産している。また、自社でフィルムプリンターを所有しており、顧客ごとのニーズに合うパッケージの製造のほか、商品企画、デザイン提案、サンプルの作成にも対応する。

社内にIT部門を構えており、パッケージと連動したトレーサビリティ（生産履歴管理）システムなどのデジタルコンテンツの構築も自社内で可能だ。

独自製品
食品ロスの低減、
衛生管理に貢献

「パッケージは」最終的にはゴミとなってしまうが、ゴミの中でも環境に迷惑をかけないようなものになりたい」と志礼明彦社長が話す

ように環境保全への貢献を第一に考えた研究開発を進めている。

従来の包装材と比べ、廃棄時のゴミや焼却時のCO₂発生を削減できる単一素材のパッケージに加え、外部からの密閉性と内部からの通気性を両立させた製品を開発。青果物などの鮮度を保ち食品の廃棄ロスの削減に貢献する高付加価値なパッケージなどを数多く展開する。供給を通して社会全体に向けたノントレ化やノンフードバック化を推進している。ゴミや異物の混入も防ぐことができ、食品の衛生管理にも一役買っている。

今後の展望
自社の成長と
環境保全の両立に向けて

現在、同社の売り上げは野菜向けパッケージが大部分を占めている。しかし天候不順や自然災害の影響による野菜の供給の変動の影響を受けやすい。このため売り上げの安定を目指し、総菜向けパッケージを強化する方針だ。

同社が注目しているのがコンビニのレジ横で揚げ物などの総菜をそろえるホットコーナー。総菜提供の際に使用される紙とフィルムを組み合わせた包装材の提供拡大を目指している。店舗数の多いコンビニでは供給の安定だけでなく量も期待できる。販売先を広げながら、環境貢献包装材の普及に努め、成長を目指す。

青果用
オリジナル袋

本社工場

当社の歴史



当社は、大手文具メーカーのクリアファイルや名刺ファイルなど、文具製品の製造会社として創業し、品質を確保する特殊加工技術を培ってきました。その後は、雑貨、青果、食品にも展開。特に食品では長期間鮮度が保持できるパッケージも開発し、ユーザーからの高い評価を頂いています。

代表取締役 **志礼 明彦さん**

<http://www.seedspack.co.jp/>

主な事業内容

プラスチックフィルムパッケージの製造・販売

主な取引先(納入先)

全国のJA（農業協同組合）、青果物生産者、量販店、食品加工メーカー、文具メーカー、包装資材卸売業者

●住所

〒581-0043
八尾市
空港1-137-1

●TEL

072-991-5866

●FAX

072-991-5986

●創業

昭和58年7月

●設立

昭和58年7月

●資本金

1,000万円

●従業員

39名